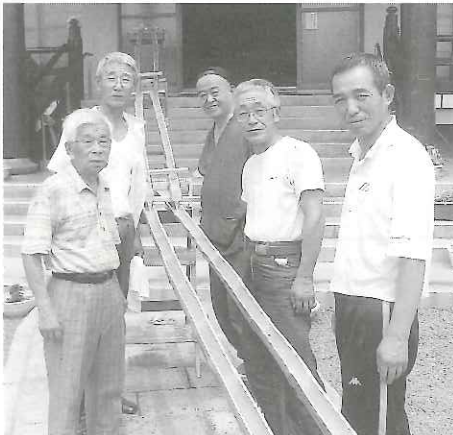


# 楽しかったよ。 おいしかったよ。 “流しそうめん”

(右) 本堂の階段の上から流した  
そうめんをはして見事に  
キャッチしておいしく  
いただきました  
(7月27日、子ども会  
サマースクールで)



(左) そうめん流し台を作って  
くださった皆さん  
(7月22日、おひさんたちの  
サマースクールで)

# よ う こ そ

第 11 号  
浄土真宗本願寺派  
円光寺  
〒870-0108  
大分市三佐3-15-18  
TEL 097-527-6916  
FAX 097-527-6949

## 本当に暑い夏でした

今年の夏は本当に暑かった。いや、お盆を過ぎても、九月に入っても、この異常な暑さはまだまだ続いています。

八月十六日には、岐阜県の高治見市と埼玉県の熊谷市で、40.9度という日本最高気温が観測されました。何と74年ぶりの記録更新で、その前は、昭和八年の山形市での40.8度だったそうです。

ちよつと以前は、30度を超えたと「本当に暑いねえ」でしたが、今年から設定された35度を超える「猛暑日」が、連日のように各地で記録され、もう灼熱列島、日本全体が熱射病にうなされるような状況で、まさに病気です。

さて、この暑さ。先人は自然と共生し、たくましく生きてきました。打ち水をしたり、軽やかな風鈴の音に涼をもとめてといった、生活の知恵、工夫です。ところが、今どきの暑さ対策はというと、外の自然と隔絶して、冷房の効いた屋内で過ごすことだといえます。でも、これって、地球の温暖化に拍車をかける行為で、現代人ほど地球環境にとって、悪いことばかりしているようです。

夏休み恒例のサマースクールで、そうめん流しをしました。暑い暑い炎天下、四本の竹をつないだ全長15メートルの樋を、そうめんが気持ち良さそうに流れて行きます。子どもたちも大喜びで、そうめんを取ってはつゆの入ったお椀につけ、すーっと一気にいただきます。「ああ、おいしい」と、みんなと一緒に食事をし、また汗びっしょりになって遊んでいます。お寺にこだまする子どもたちの歓声は、一服の清涼剤です。

お寺での夏の思い出を大切に、これからもお寺に遊びに来てほしいと思います。

# 私は『門徒』です……か!?

## お寺と私と浄土真宗

### 門徒とは

円光寺門徒とか、〇〇寺門徒とかいいます。

円光寺門徒とは、円光寺に所属する浄土真宗の門徒ということです。

浄土真宗以外の宗派では、一般に檀家といえます。檀家の所属寺が檀那寺です。檀那とは、インドの言葉でダーナ、布施という意味です。

門徒とは、一門の徒弟ということで、御文章さまの『聖人一流章』に「聖人一流のご勸化：云々」とあるように、親鸞聖人が開かれた浄土真宗、本願念仏一門の流れをくむ者を、門徒というのです。

### 自らの名を

私たちは、この人間界に生まれ、今、ここに生きています。浄土真宗のお家に生まれ育った人、浄土真宗のお家に入籍した方もいらっしゃる。ご縁です。私が選んだわけではなく、浄土真宗のご縁をいただきました。仏さまの尊いご縁を、大切に致しましょう。

## ご案内

### ◆秋彼岸会

9月22日(土) 11:00~14:00  
同 19:30~21:00  
9月23日(日) 13:30~15:00

### ◆常例法座

10月16日(火) 10:00~11:30

### ◆御正忌報恩講

11月26日(月) 13:00~15:00  
同 19:00~21:00  
(子どもほうおんこう)

11月27日(火) 11:00~15:00  
同 19:00~21:00

11月28日(水) 10:00~12:00

### ◆常例法座

12月14日(金) 10:00~11:30

### ◆除夜会(鐘つき)

12月31日(月) 23:40より

「月に一度は寺参り。  
誘い誘われ 皆共に、つとめて  
聴聞、はげみましよう」

お家のお仏壇におまいりしましょう。お仏壇は、阿弥陀さまのお浄土のすがたをあらわします。ご先祖の方々も、そしてこの私も、救うてくださる、南無阿弥陀仏のお徳(おはたらき)が示されています。

そのおいわれを聞かせていただくことを、お聴聞といえます。お家のご法事やお寺の法要行事のご縁に遇わせていただきます。浄土真宗のみ教えにふれていただきたいと思えます。

こうした仏さまのご縁を重ねる中で、「私は浄土真宗の門徒です」と自らの名をつてほしいと思えます。



第3回還暦を祝う会(8月15日)  
これをご縁にお寺にお参りください

### 門徒のたしなみ

日々お仏壇のお給仕を怠りなく、お念仏の生活をたしなみましよう。そして、ご法義の繁盛とお寺の護持発展のために、できることからお手伝いしていただきたいと思えます。

## 世々生々

「KY」という若者言葉があるそうだ。「空気が読めない」という。七月の参院選挙で自民党が惨敗した要因を語るとき、このKYなる言葉が使われた

◆年金問題や、閣僚の度重なる不祥事、失言に対する、安倍内閣の対応が、KY。国民の期待を裏切ることばかりで、内閣不支持の世論を止められず、最悪の選挙結果に。そして選挙後、首相続投の判断が、KY。安倍政権が窮地に立たされている◆民意という、国民の声を聞いて、具体的な政策に反映するのが政治であり、為政者は選挙で賛否を問われる。政治家は常に民意に敏感でなければならぬ。民意という空気を読むことは、これからのお寺のあり方を考えるときにも重要だ◆一方で「空気に流される」という。民意に振り回されて、何のためのお寺か、仏教本来の目的が見失われることにもなりかねない。ここにこそ、仏意というか、仏さまのお心を、たずねていくことが大切である◆葬式仏教と言われる。ただ儀式だけ、形だけの仏教、お寺に終始すれば、もう先が見えている。日々のお勤めを通して、ご門徒皆さんの声を謙虚に聞かせていただきたい。

お朝事『法話』より

ふつと気づく

新聞のコラムで「雪隠で考える」という記事を読みました。雪隠とはトイレのことです。トイレで物事を考えると、いいアイデアがうかぶといっています。中国の故事に「三上」といつて、「馬上」馬の背、「枕上」寝床、「厠上」雪隠の中が、ものを考えるのに最適の場所といわれています。

そこには「机上」がありません。机の上とは勉強する所です。思いをめぐらせて、何かいい考えがないか、ないかと頭を固くすればするほど、いい考えがうかばないといふことです。

今は、トイレが家の中で一番安全で、安心できる場所のようです。私が小さい頃のトイレは、暗い、臭い、怖いという3Kの行きたくない所でした。今は水洗トイレで、明るい個室になっています。そこで、新聞や本を読んだり、ゆつくり物事を考えることもあります。

最近、私はよく歩きますが、歩いていて、ふつと考えがうかぶことがあります。京都の銀閣寺の辺りに哲学の道があります。

哲学者の西田幾多郎が、その道歩きながら、思索したという道だそうです。歩いて体を動かすことで、脳が活性化して、いい考えがうかぶのでしょうか。

でも、そこには大事なことがあります。それは、それまでに積み重ねた学びがあつて、いい考えがうかぶということです。ある時、何かの拍子に、がっちり固まっていたものがぱつと弾け、アイデアがふつとうかぶということではないでしょうか。

お念仏を喜ばれて生きた妙好人が「ふつと気づかせていただきました」と言われました。お念仏の教えを、聞かずにいかに覚えにやいかんと、聞くこちら側に力が入ると、阿弥陀さまのお慈悲の有り難き尊さに、なかなか気づかないといっています。

お念仏の生活をさせていたただく中に、ふつと気づかせていただく。これも、日頃の仏法聴聞のご縁があつてのことです。阿弥陀さまのおはたらきの頼もしさを心強く思います。

(7月13日)

基本にかえる

昨日は、地元の楊志館高校の試合もあり、盆明けということ、朝からゆつくりテレビで甲子園の高校野球観戦を楽しみました。

した。その中で、解説者の話に興味深いことがありました。

リードされ苦しい展開のときにこそ、基本に立ち返って自分たちの野球を一つ一つやっていくことが大事だということでした。一番打者が出塁して、二番はバントで送り、三番、四番で得点するというパターンです。それで、たとえ点が入らなくてもいいというんです。おかしなことを言うなと思いましたが、得点しなければ試合には勝たないからです。

でも、これが自分たちの野球なんだというものをやり通すことで、よい流れを呼び込むことができるというわけです。

私たちの生活についても同じようなことがいえると思います。私たちは何か困った、行き詰



夏至の日・早朝ウォーキング (6月22日) この後、お朝事にお参りました

まったときに、打開策を考えます。いつも通りの生活はワンパターンで面白くない、嫌だと、ああいう生活がしてみたいとか、あの人のようになりたいとか思ったりします。

しかし、大事なことは、生活が落ち着いていないと、それこそ、その時その時の状況に振り回されて、右に行ったり左に行ったりということにもなつてしまいます。

お念仏の生活といえます。仏さまを中心とした日々の営みです。私たちは、ご縁をいただきたい、阿弥陀さまのお家に住まいさせていただいています。

私たちの先人は、お念仏申して朝夕仏さまにお礼をし、苦惱の人生を生き抜いてきました。そして、私たちに大事な大事な宝ものを贈ってくださいました。

南無阿弥陀仏は「かえつてこいよ」の阿弥陀さまのおよび声と聞かせていただきます。「あなたのいのちをそのまんま引き受けた」と、私の生死の帰依処をお浄土と定めてくださり、いつでも、どんな状況にあつても、阿弥陀さまが一緒です。

「自分たちの野球を楽しもう」と球児が言います。お念仏申しつつ、私の人生を大いに楽しんで生きていきましょう。

(8月18日)

# 九重“夢”大吊橋に行きました

5月28日(月)に、仏教婦人会の日帰り旅行をしました。

三年に一度の企画で、県内各地をまわり、今回が三回目です。

工藤喜代子会長、坊守はじめ36名が参加、人気の九重“夢”大吊橋や日田のサッポロビール九州工場、祇園山鉾会館を観光しました。

大吊橋では恐怖で足がすくみ、ビール工場では試飲を満喫したりと、和気あいあいに親睦を深める楽しい旅になりました。

## 初参式



(左から) 古野わたるさん、古野りゆうさん、清原もえさん、矢野りんかさん、岩崎ともやさん

5月20日(日)、親鸞聖人降誕会のご縁に、今年も初参式を行いました。



“夢”大吊橋をバックに記念撮影

子ども会の遠足で、JR西大分駅から別大国道を歩いて、田浦ビーチに行きました。



仏旗を先頭に約4kmの道のりをみんなで歩き通しました(6月17日)

## 七夕キャンドルサービス



七夕飾りの本堂で、懐かしい童謡や唱歌と一緒に歌いました



最後は大きな輪をつくってキャンドルサービス  
“今日の日はさようなら”  
(7月7日)

## 第10回盆おどり大会



1998年8月1日に始めて10年。新調したやぐらを囲んで鶴崎踊りを楽しみました(8月12日)

## 第27回サマースクール



小学生66名、中学生リーダー4名が参加しました(7月26日~27日)

## あとかぎ

今年もお世話になった有縁の方々の初盆参りをさせていたただいた。初めての所で不案内だが、電話で聞きながら訪ねる。きれいに飾りされたお仏壇の阿弥陀さまが迎えてくれる。それぞれの家ででの生活ぶりを想う。日々何度も、この場所に座り、南無阿弥陀仏とお念仏申したことだろう。先に往かれた人もお浄土ならば、後に残ったこの私もまた同じお浄土に生まれさせていたただく。大きな大きないのちのつながりの中に、共に生かされてある身の幸せをうれしく思う。